

野外活動プログラム実習 募集要項

～キャンプの魅力を見直し！～



- 1 目的 テント泊を伴うキャンプの基本的な活動体験をととして、集団宿泊の行事で実施するキャンプの担当者及び指導者としての資質の向上を図る。
- 2 主催 静岡県立朝霧野外活動センター（指定管理者：日本キャンプ協会グループ）
- 3 日程 令和5年8月17日(木)11:00～18日(金)16:00 1泊2日
- 4 会場 静岡県立朝霧野外活動センター キャンプ場Aサイト
- 5 対象 小学校、中学校、高等学校の教職員等
- 6 内容

1日目 8月17日(木)		2日目 8月18日(金)	
時間	プログラム	時間	プログラム
11:00	集合・受付 開講式、日程説明、諸連絡	6:00	起床
13:00	昼食(持参)	6:30	朝のつどい
14:00	仲間づくり体験(アイスブレイク)	7:00	バーナーで食事づくり体験(野外炊事)
15:30	焚火で夕食づくり体験(野外炊事) 夕食		朝食
19:00	夜の自然体験(ナイトプログラム) プラネタリウム鑑賞 星空観察 ボンファイヤー・ふりかえり		キャンプ場の片付け
21:00	入浴(シャワー) 諸連絡	9:00	朝霧自然体験 フォトロゲイニング®
21:30	テント泊体験 寝袋と服装の準備	14:30	振り返り
22:00	就寝 ※寝袋をお持ちでない方には、レンタル寝袋もあります。	16:00	閉講式 解散

- 7 募集定員 20人
- 8 参加費 4,500円（プログラム費、食費、保険料等全て含む）

走れば山が
美しくなる!

静岡スバル
SHIZUOKA SUBARU

なんかいいな、をプラスワン
Green House

朝霧野外活動センターが推進する「走れば山が美しくなる！」運動は、(株)静岡スバルと(株)グリーンハウスに協賛いただいています。

9 申込方法 ホームページ又はQRコードから申込フォームにアクセスし、必要事項を入力してください。

※参加決定者には、当日の詳しいご案内（日程、持ち物等）をお送りします。



10 申込締切 令和5年7月23日(日)

先着順に受け付けます。応募者が募集定員に達し次第、募集を締め切ります。

11 申し込み・問い合わせ先

静岡県立朝霧野外活動センター 野外活動プログラム実習 担当：立林雅貴

〒418-0101 静岡県富士宮市根原1番地

TEL：0544-52-0322 FAX：0544-52-0320 E-mail：asagiri@camping.or.jp

URL：http://asagiri.camping.or.jp

今こそ！キャンプのススメ



現代の子供たちに必要されている体験活動は、集団宿泊的行事として行うキャンプ(組織キャンプ)の場面ではよく目にする事ができるものばかりです。キャンプには、多くの体験の場が用意され、高い教育的効果が期待されています。

組織キャンプには一人一人を成長させる力があります

キャンプ生活の中には、グループで話し合っ解決する場面、苦しいことや大変なことに自らチャレンジして成功する場面、本物の自然や自然物に直に触れる機会、グループや参加者がおかれた状況をよく把握し、支援ができる教職員、仲間と一緒に寝泊まりし生活すること、仲間と一緒に自分たちの暮らしを作る場面など、多くの教育的な場が用意されています。その場を教職員が有効に活用することで、子供たち一人一人の成長が促されていきます。

コミュニケーション能力、人間関係を育成します

キャンプでは、人と人とのコミュニケーションのあり方や、根本的な人間関係について体験を通して直接学ぶ場が豊富に用意されています。友人関係の希薄化、コミュニケーション能力の低下、ネットへの過度の依存といった現代的な課題に対応するには、自らの目で確かな情報を見極めることや課題を自ら見つけ解決していく能力、他者を受け入れつつ自己の考えや気持ちを相手に直接伝えられるコミュニケーション能力などが必要となってきます。キャンプには、日常生活では減少しているこれらの場を体験することができます。

自然観が育まれます

私たち日本人は、豊かな自然環境と文化的基盤を背景とした独自の自然観や自然認識力を持っています。日本的な自然観とは、稲作を中心とした暮らしや、里山での循環型の暮らし、また、海、山、川での農林漁業を中心とした暮らしなど、それぞれの暮らしの中で長い時間をかけて形作られてきた自然の見方、感じ方です。

キャンプは、子供たちの体験不足を補う場としての効果ばかりでなく、私たち日本人が持っている独自の自然観を身につける場としての機能もあわせもっているのです。

地域や環境について学びます

キャンプは、地域の暮らしや食文化、里山文化など、すぐれた文化体験の場ともなり、また、環境教育の場としてもきわめて有効です。自然環境は、われわれの生活・文化・経済にとってなくてはならないものであり、人間社会全体の発展の基盤であることを理解する場としてもキャンプは最も適している場の一つです。

キャンプと防災教育

阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震等の大きな地震災害に加え、各地の集中豪雨による水害や、台風による風水害など、近年の日本では、毎年のように、どこかで大きな災害が発生しています。

このようなとき、キャンプ経験者が持つテント生活技術や屋外で暮らすための技術が、大いに活かされてきました。安全教育や防災教育の視点、あるいは災害時のサバイバルといった視点からも、いま、改めてキャンプを見直す動きが全国に広がり始めています。